

県立中央病院は来年1月、月経痛に悩む女性を対象にした「月経痛・子宮内膜症外来」を北陸で初めて開設する。月経痛には子宮内膜症<sup>①</sup>などの病気が隠れている場合があり、不妊症の原因になることもある。早期の

治療で痛みを改善し生活の質を高められるほか、将来の妊娠にもつながりやすくなる。担当医の草開友理医師(32)は「気軽に相談できる場を提供し、女性のヘルスケアに取り組んでいきたい」と語る。(藤田愛夏)

## 北陸初 県立中央病院 来月から専門外来

# 月経痛 早期診療を



「月経痛・子宮内膜症外来」を担当する草開医師(右) 県立中央病院

**スムーズ?**  
子宮内膜症 子宮の内側にある子宮内膜が子宮の内側以外の場所が増え、炎症を起こしたり月経のたびにその場所から出血を繰り返したりする病気。閉経まで完治しない。最も多い症状は月経痛とされる。月経のある女性であれば、誰にでも発症する可能性がある。

## 子宮内膜症の発見も

月経痛は、8割の女性に自覚症状があるとされる。下腹部や腰の痛みのほか、頭痛や疲労感などの症状が現れ、仕事や日常生活に大きな支障が出るケースもある。月経痛が続く中で診療を受け、子宮内膜症が発見される場合もある。

初経年齢の早まりや出産年齢の上昇などにより、子宮内膜症の患者は増えているという。さらに、患者の約半数が不妊症というデータもある。

不妊症専門医の草開医師は、これまで年間約100人を診療してきた。受診者の経済的・精神的な負担が大きい中で、不妊治療をしても成功率が低い現実を目の当たりにした。診療してきた人の半分近くが子宮内膜症を患い、中には悪性化して卵巣がんになった患者もいた。

「『ただの月経痛』という人が多く、病気の可能性もある。適切な治療を受け、産みたいときに産める環境

が必要」。草開医師はそんな思いを抱き、専門外来を設置した。

外来は、毎週水曜日の午後後に開く。最新の超音波検査装置などを使って診断し、患者の年齢やライフプランに合わせて、ホルモン剤や低用量ピルなどの薬物療法のほか、体への負担が

小さい腹腔鏡手術などの治療を提案する。草開医師は「産婦人科の受診に抵抗のある人や10代も、月経痛がつけければ気負わずに受診してほしい」と呼び掛ける。初診でも紹介状なしで電話予約ができる。予約は産婦人科外来、電話076(424)1531。

「『ただの月経痛』」